

平成27年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	特別活動の研究		授業コード	K005151
担当教員名	橋口 泰宜		科目ナンバリングコード	K30109
配当学年	3	開講期	後期	
必修・選択区分		単位数	2	
履修上の注意または履修条件				
受講心得				
教科書	高等学校学習指導要領解説・特別活動編 文部科学省			
参考文献及び指定図書				
関連科目				

授業の目的	日本における学校教育の目的は人格の完成にあり、日本国憲法並びに教育基本法その他の法令の下、平和で民主的な国家及び社会の形成に主体的に参画する人間の育成を目指して体系的な教育が組織的に行われています。その一環としての特別活動では、望ましい集団活動を通して児童生徒一人ひとりの自主的・実践的な生きる力の育成を基本課題としています。「特別活動の指導法」では、この特別活動の基本課題を達成すべき教師の専門的力量的基礎・基本を習得することを目的としています。
授業の概要	特別活動の教育的意義は、集団活動を通して学校性格における規律づくりと意欲的な学習集団づくりに資する生徒の自主的・実践的な主体性を育成する点に求められます。授業では、学習指導要領に則して、また生徒のこれまでの学校生活体験の振り返りを踏まえて、特別活動の意義、目標、内容、評価について、講義、演習、集団討議、プレゼンテーション等の方法を通して学習して行きます。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週: 「特別活動の指導法」の課題と学習意欲の涵養およびオリエンテーション	学校教育の思い出についてレポートを作成、提出す ↑
第2週: 学校教育体験の振り返りと特別活動の位置(1)学校教育の思い出をグループ別に討議し図表化する。	学校教育の思い出を振り返り整理する。
第3週: 学校教育体験の振り返りと特別活動の位置(2)プレゼンテーションを通して思い出の共有化を図る。	自己の体験の固有性と普遍性を確認する。
第4週: 学校教育体験の振り返りと特別活動の位置(3)記憶に残る学校教育と特別活動の意義について理解する。	学校教育活動の構成と特別活動の特質について理解する。
第5週: 特別活動の目標:特別活動の目標並びにその背景について理解する。	学校教育活動には目標が設定されていることを理解す ↑↑
第6週: ホームルーム活動(1): 目標と内容を理解し、指導上の課題について集団討議する。	ホームルーム活動の目標の背景を理解する。
第7週: ホームルーム活動(2): プレゼンを通して指導上の課題を共有する。	指導上の課題を整理す ↑

第8週：生徒会活動(1):目標と内容を理解し、指導上の課題について討議する。	生徒会活動の指導上の課題について整理する。	
第9週：生徒会活動(2):プレゼンを通して指導上の課題を共有する。	生徒会活動と学校生活の規律づくりの関係について整理する。	
第10週：学校行事(1):全体及び内容ごとの目標を理解し、指導上の課題について討議する。	学校行事の意義を整理する。	
第11週：学校行事(2):プレゼンを通して指導上の課題を共有する。	学校行事の指導上の課題を整理する。	
第12週：特別活動と学級経営:特別活動を通じた学級づくりの意義について理解する。	学級づくりの観点から特別活動の意義を整理する。	
第13週：特別活動と生徒指導:特別活動を通じた生徒指導の意義について理解する。	生徒指導の観点から特別活動の意義を整理する。	
第14週：特別活動と評価:特別活動の評価について理解する。	特別活動の評価の特性を教科の評価と比較して整理する。	
第15週：特別活動の意義と教師の役割:特別活動の教育的意義と教師の課題について確認する。	特別活動における教師の位置について整理する。	
第16週：試験		
授業の運営方法	(1)授業の形式	
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	
地域志向科目	該当しない	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標

【関心・意欲・態度】	
【知識・理解】	
【技能・表現・コミュニケーション】	
【思考・判断・創造】	

○成績評価基準(合計100点)

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	0点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等(テスト)	レポート・作品等(提出物)	発表・その他(無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		10点	15点	

【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。	40点		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。			
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。		20点	15点

(「人間力」について)

※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安

成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	①提出の有無 ②記述内容の適切性。
発表・その他 (無形成果)	①発表の積極性、②発表内容の適切性、論理性、説得性